

タイトル	彙報・活動・編集後記・規定
著者	
引用	北海学園大学大学院文学研究科(20)
発行日	2023-12-25

〔彙報〕

令和四年度 大学院文学研究科

◆学位論文題目一覧

博士學位論文

●日本文化専攻博士（後期）課程

氏名	博士論文題目
山田 萌果	アブジェクトとしての少女 —現代日本の少女表象へ フェミニズム美学からのアプローチ—

修士學位論文

●日本文化専攻修士課程

氏名	修士論文題目
長田 直美	現代短歌における社会詠の位相 —〈癒し〉と〈救い〉をキーワードに—

●英米文化専攻修士課程

氏名	修士論文題目
西村 秋桜	1930年代から2020年代までの デイズニーヒロインの「断り」の変容 —発話行為から見る言語変化と それに伴う社会的変化について—

◆ 授業科目及び担当者

● 日本文化専攻博士（後期）課程

授業科目	担当教員
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅠA	テレンゲト・アイトル教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅠB	テレンゲト・アイトル教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅠC	テレンゲト・アイトル教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅡA	鈴木英之教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅡB	鈴木英之教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅡC	鈴木英之教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅢA	田中 綾教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅢB	田中 綾教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅢC	田中 綾教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅣA	徳永良次教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅣB	徳永良次教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅣC	徳永良次教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅤA	大谷通順教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅤB	大谷通順教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅤC	大谷通順教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅥA	大石和久教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅥB	大石和久教授
日本語、思想文化論文指導特殊演習ⅥC	大石和久教授

授業科目	担当教員
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡA	郡司 淳教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡB	郡司 淳教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡC	郡司 淳教授
論文指導Ⅱ	郡司 淳教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢA	手塚 薫教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢB	手塚 薫教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢC	手塚 薫教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣA	須田一弘教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣB	須田一弘教授
日本歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅣC	須田 弘教授

●英米文化専攻博士（後期）課程

授業科目	担当教員
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠA	田中洋也教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠB	田中洋也教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅠC	田中洋也教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡA	米坂スザンヌ教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡB	米坂スザンヌ教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅡC	米坂スザンヌ教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢA	上野誠治教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢB	上野誠治教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅢC	上野誠治教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣA	佐藤貴史教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣB	佐藤貴史教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅣC	佐藤貴史教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤA	渡部あさみ教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤB	渡部あさみ教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅤC	渡部あさみ教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅥA	ブシャー・ジエレミ教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅥB	ブシャー・ジエレミ教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅥC	ブシャー・ジエレミ教授

授業科目	担当教員
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦA	森川慎也教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦB	森川慎也教授
欧米言語・思想文化論文指導特殊演習ⅦC	森川慎也教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠA	柴田 崇教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠB	柴田 崇教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅠC	柴田 崇教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡA	大森 輝教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡB	大森 輝教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅡC	大森 輝教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢA	小松かおり教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢB	小松かおり教授
欧米歴史・環境文化論文指導特殊演習ⅢC	小松かおり教授

● 日本文学専攻修士課程

授業科目

担当教員

日本文学特殊講義Ⅰ	関本真乃 准教授
日本文学特殊講義演習ⅠA	関本真乃 准教授
日本文学特殊講義演習ⅠB	関本真乃 准教授
日本文学特殊講義Ⅱ	田中 綾 教授
日本文学特殊講義演習ⅡA	田中 綾 教授
日本文学特殊講義演習ⅡB	田中 綾 教授
論文指導	田中 綾 教授
日本文学特殊講義Ⅲ	中村三春 講師
比較文学特殊講義Ⅰ	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊講義演習ⅠA	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊講義演習ⅠB	テレングト・アイトル 教授
比較文学特殊講義Ⅱ	大谷通順 教授
比較文学特殊講義演習ⅡA	大谷通順 教授
比較文学特殊講義演習ⅡB	大谷通順 教授
日本思想特殊講義Ⅰ	鈴木英之 教授
日本思想特殊講義演習ⅠA	鈴木英之 教授
日本思想特殊講義演習ⅠB	鈴木英之 教授
日本思想特殊講義Ⅱ	大石和久 教授
日本思想特殊講義演習ⅡA	大石和久 教授
日本思想特殊講義演習ⅡB	大石和久 教授

授業科目

担当教員

日本語研究特殊講義Ⅰ	丸島 歩 准教授
日本語研究特殊講義演習ⅠA	丸島 歩 准教授
日本語研究特殊講義演習ⅠB	丸島 歩 准教授
日本語研究特殊講義Ⅱ	徳永良次 教授
日本語研究特殊講義演習ⅡA	徳永良次 教授
日本語研究特殊講義演習ⅡB	徳永良次 教授
比較言語研究特殊講義Ⅰ	寺田吉孝 教授
比較言語研究特殊講義演習ⅠA	寺田吉孝 教授
比較言語研究特殊講義演習ⅠB	寺田吉孝 教授
日本史特殊講義Ⅰ	片岡耕平 准教授
日本史特殊講義演習ⅠA	片岡耕平 准教授
日本史特殊講義演習ⅠB	片岡耕平 准教授
日本史特殊講義Ⅱ	郡司 淳 教授
日本史特殊講義演習ⅡA	郡司 淳 教授
日本史特殊講義演習ⅡB	郡司 淳 教授
環境文化特殊講義Ⅰ	手塚 薫 教授
環境文化特殊講義演習ⅠA	手塚 薫 教授
環境文化特殊講義演習ⅠB	手塚 薫 教授
環境文化特殊講義Ⅱ	須田一弘 教授
環境文化特殊講義演習ⅡA	須田一弘 教授
環境文化特殊講義演習ⅡB	須田一弘 教授

●英米文化専攻修士課程

授業科目		担当教員	授業科目		担当教員
英米文学特殊講義 I	渡部あさみ教授	英米思想特殊講義 I	小柳敦史 准教授		
英米文学特殊講義演習 I A	渡部あさみ教授	英米思想特殊講義演習 I A	小柳敦史 准教授		
英米文学特殊講義演習 I B	渡部あさみ教授	英米思想特殊講義演習 I B	小柳敦史 准教授		
英米文学特殊講義 II	森川慎也教授	英米思想特殊講義 II	佐藤貴史教授		
英米文学特殊講義演習 II A	森川慎也教授	英米思想特殊講義演習 II A	佐藤貴史教授		
英米文学特殊講義演習 II B	森川慎也教授	英米思想特殊講義演習 II B	佐藤貴史教授		
英語研究特殊講義 I	上野誠治教授	欧米史特殊講義 I	仲丸英起 准教授		
英語研究特殊講義演習 I A	上野誠治教授	欧米史特殊講義演習 I A	仲丸英起 准教授		
英語研究特殊講義演習 I B	上野誠治教授	欧米史特殊講義演習 I B	仲丸英起 准教授		
英語研究特殊講義 II	米坂スザンヌ教授	欧米史特殊講義 II	大森一輝教授		
英語研究特殊講義演習 II A	米坂スザンヌ教授	欧米史特殊講義演習 II A	大森一輝教授		
英語研究特殊講義演習 II B	米坂スザンヌ教授	欧米史特殊講義演習 II B	大森一輝教授		
英語研究特殊講義 III	田中洋也教授	環境文化特殊講義 e I	小松かおり教授		
英語研究特殊講義演習 III A	田中洋也教授	環境文化特殊講義演習 e I A	小松かおり教授		
英語研究特殊講義演習 III B	田中洋也教授	環境文化特殊講義演習 e I B	小松かおり教授		
英語研究特殊講義 IV	ブシャー・ジュレミ教授	環境文化特殊講義 e II	柴田 崇教授		
英語研究特殊講義演習 IV A	ブシャー・ジュレミ教授	環境文化特殊講義演習 e II A	柴田 崇教授		
英語研究特殊講義演習 IV B	ブシャー・ジュレミ教授	環境文化特殊講義演習 e II B	柴田 崇教授		

文学研究科教育・研究発表活動

◎二〇二三年度 第一回全体ゼミ（中間報告）

七月二日（土） 10:00～11:50、21番教室にて開催された。修士課程と博士（後期課程）に在学する二名の院生が次の題目で論文の構想とその内容の一部を発表した（参加者約30名）。

伊藤 翔太 「摂関期における天皇の『罪』―『小右記』の記事を中心に―」

福井 花也 「G・E・レッシングによる寓話における神々の役割」

また修士課程一年の武田佑希子さんが「GISコミュニケーションフォーラム マップギャラリー2023 ストーリーマップ部門」において第1位を獲得したのを記念して、以下の題目で受賞作品について講演をお願いした。

武田佑希子 「『幽鬼の街』小樽を歩く―小樽の街の

今昔と伊藤整の『坂』表現―」

◎二〇二三年度 第二回全体ゼミ（中間報告）

十一月四日（土） 10:00～12:40、C31番教室にて開催された。修士課程に在学する四名と博士（後期課程）に在学する五名の院生が、次の題目で論文の構想とその内容の一部を発表した（参加者約30名）。

多米 玲奈 「幻想の装置としての短歌―葛原妙子を中心に―」

林 香苗 「三浦綾子『銃口』試論―研究史とその課題」

太田 幸夫 「芥川龍之介の『女』論―『詩的精神』の反映としての視点から―」

城田 龍星 「現代英語における発音と綴りの不一致」

辻見 祐太 「日・リチャード・ニーバーにおける『文の神学』」

編集後記

●『年報新人文学』第二〇号をみなさまにお届けします。本号は巻頭言、論文四編、書評一編、三十周年記念シンポジウムの関係資料を収め、二百頁を超えるものとなりました。本号の論文は北海学園大学大学院文学研究科に在籍する研究者や大学院生によって執筆されたもので、いずれも地道な調査・研究活動の成果となっています。執筆者のみなさま、厳正な査読を引き受けてくださった査読者の方々に心よりお礼申し上げます。

●巻頭言は、テレングト・アイトル教授に「人文学における「批判的思考」と「創造性」について」と題して、大学教育現場、とりわけ人文学教育において必要とされる「批判的思考」と「創造性」という二つのフレームワーク・思考様式について縦横に論じていただきました。

●掲載論文の中では、まず、大木七帆・大澤真也・中西大輔・水島梨紗・田中洋也・James Ronald氏らによる「オンライン誘出模倣課題を用いた英語語用論的定型表現の指導」は、六人の研究者がこれまで実施した共同研究の成果をまとめたものとうかがっています。続いて、博士課程に在籍する大村勅夫氏による、「笹井宏之の短歌の研究 その一―第一歌集『ひとさらい』における身体語彙「手」を中心に―」は、笹井宏之の第一歌集『ひとさらい』における「手」を中心に記述し、笹井の短歌は、短歌初学者にとつてきわめて価値があり、魅力的なものであることを論じており、この続編が期待されます。修士課程に在籍する太田幸夫氏の「芥川龍之介の「詩的精神」をめぐる言説について」は、文学理論や「漢籍」という切り口で、芥川の創作上の問題点の解明を目指し、「誌的精神の実現」の困難さについて論じています。同じく修士課程に在籍中の武田佑希子氏の「幽鬼の街」小樽を歩く―伊藤整の「坂」にまつわる感覚的表現―」は、坂の傾斜やその表現について、フィールドワークと地理情報システムを用いて現実の小樽の街と作品「幽鬼の街」とを比較することで、作品に対して新たな読みを提示した意欲的な論文となつています。武田氏は、第二〇回GISコミュニティフォーラムの地図作品コンテスト「マップギャラリー二〇二三」のストーリーマップ部門で見事一位に選ばれています。学長賞受賞記事が北海学園大学『学報』第一三六号にすでに掲載されていることでも周知のとおりです。

●成果と展望では、修士課程に在籍する林香苗氏による『あたたかき日光ひかげ 三浦綾子・光世物語』の書評は、二〇二三年

に北海道新聞社から刊行された本学人文学部教授田中綾氏による「光世日記」に材をとった同名の小説に寄せたものであり、我が国でも稀有な「口述筆記」に焦点をあてています。

●人文学部開設三〇周年記念シンポジウム「新人文主義のフロンティア」「耕すこと」と「食べること」から考える人文学の可能性―は、令和五年九月三〇日に豊平キャンパスB四一教室で開催され、非常に多くの聴講者が詰掛けました。京都大学人文科学研究所の藤原辰史氏の基調講演を皮切りに、本学人文学部・小松かおり教授と郡司淳教授による講演が続き、その後質疑応答が行われました。本号でもそれぞれの講演と質疑応答を再録しており、当日の熱気を体感していただけます。

●本研究科には今号のように優秀な投稿者の他にも着実に研究を進めている大学院生が多数在籍しています。本誌は、姉妹誌である『人文論集』とは異なり、査読を経て論考が掲載される学術誌です。大学教員からの珠玉の論文投稿以外にも大学院生からの投稿も歓迎しています。みずからの研究を磨礪するのに最適ですので、大学院生の皆様も奮ってご投稿ください。

●前号から始動した「解説シリーズ―今、何が起きているのか？」の新企画は、人文学部開設三〇周年記念シンポジウム特集記事を急遽掲載することになったため、止む無く休載とさせていただきます。次号では、満を持して再開する予定です。楽しみにお待ちしております。

(手塚薫・仲丸英起)

『年報 新人文文学』投稿規定

- 一、『年報 新人文文学』は、人文文学に関する広範な分野の研究成果を掲載し、内外の研究交流を図ることを目的とし、年一回発行を原則とする。
- 二、投稿原稿の著者は、人文学部及び文学研究科の所属者でなければならない。ただし編集委員会が認めた場合はその限りではない。
- 三、原稿は日本語、あるいは英語とし、種類と分量はそれぞれ次のとおりとする。
 - ①原著論文で未発表のもの、日本語なら二〇、〇〇〇字、英語なら一〇、〇〇〇字程度。
 - ②研究ノート・資料・報告など、日本語なら一二、〇〇〇字、英語なら六、〇〇〇字程度。
 - ③書評など、日本語なら四、〇〇〇字、英語なら二、〇〇〇字程度。
 - ④その他、編集委員会が必要と認めたもの。
- 四、原稿は編集委員会で厳正な審査を行い、採否を決定する。編集委員会は査読結果に基づき、原稿の一部変更を求めることがある。

北海学園大学大学院文学研究科
『年報 新人文文学』編集委員会